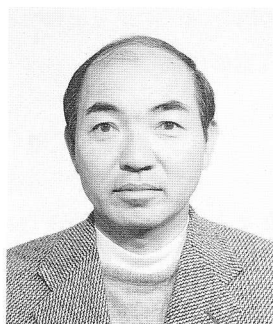


良きパートナー同志社

立命館大学航空部OB 松岡 宏 二



昭和34年立命館大学卒業
現在 (株)松岡建産社長

学連関西支部委員長当時、それまで人力で索の引戻しを行っていたウインチ訓練に、オート三輪を導入、現在のリトリブカーの先鞭をつけた。

学生時代、岩ヶ谷（同志社）喜多（関学）と共に関西の3羽鳥とうたわれ、高松飛行場では下級生にグット睨みをきかせていた。

趣味はカメラ、モーターボートなど巾広く、現在は関西エアロスポーツクラブ会長として、M・Gの普及、訓練に盡力している。

立命側から同志社を如何にとらえているかと問われれば、さて、と今さらながら解答に困ってしまう。学生達に常々同志社にだけは負けるなと檄を飛ばしている以上一般的には最大のライバルとして意識しているはずだが改めて考えて見ると、航空部同志はどうも少し普通に考えられる様なライバルでも無い様な感じがする。確かに同立戦となれば猛烈なファイトを燃やす。だが、同志社が他校と競っている時は同志社に勝ってほしいと応援するのも一般的な立命人である。この感覚はただ単に隣り同志の間柄だけでもない様な気がする。

私個人としては、学生時代、立命は広小路学舎と衣笠学舎に別れていて、広小路学舎には部室が無かったので同志社の新町部室を連絡場所に利用させてもらっていたし、出身高校の先輩が多数同志社航空部に居られた関係でずいぶん御世話になった経緯があり、そこへ又々、息子が同志社航空部員になり、いよいよ感覚が怪しくなってきた。息子の現役時代同立戦の応援に行くと同立相方から、「今日はどちらの応援ですか」と迫まれ返答に困ったものである。だから対抗意識は薄かった。しかしながら学校当局に対しては、同志社を引き合いに出し、比較して説得材料にするのが一番効果がある。こういう事はせいぜいお互いに利用（私もチョイチョイ学校に対しこの手を使わせてもらっている）しあい、航空部の発展に継がれば良いと思う。

両校は歴史的にも互いに競い合い今日の様な発展があったと思う。昔日の様には互いの校風がはっきりしないと言われている今日だが、伝統というものは簡単には崩壊しないと思う。今後とも、互いの校風を尊重しつつ、ライバルであると同時にパートナーであるという、相い入れない様な関係を両校航空部が持ち続けてくれる様望む次第である。